

研究成果18題集う

作業環境改善など 県北7高校も発表

ポリテックビジョンinおおだて

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）の学生や近隣高校の生徒が研究成果を披露する「ポリテックビジョンinおおだて合同発表会」が8日、同校で開かれ、電動自動車の製作や溶接

作業環境の改善などの取り組みを発表して互いの活動に理解を深めた。教育交流などを狙いに例年開催している。職能短大3学科の学生と、十和田、大館圏鳴、大館桂桜、大館国際情報、



秋田北鷹、能代、能代科学技術の各高校の生徒ら計58人が参加。竹を使った簡易製炭、建設業者が取り組む農業の六次産業化、睡眠と健康など多彩なテーマ18題を発表した。大館桂桜高機械科は電動自動車の製作活動を紹介。エンジン付きの車いすを企画した

研究成果を発表する学生たち（職能短大）

が、車体の耐久性などの問題からエンジンの採用を断念。モーターを動力に時速15キロ前後で走行可能な自動車を作成させた。「製造過程での試行錯誤を通じてものづくりの難しさとその楽しさを感じることができた」と語った。

職能短大生産技術科は、実習時に床置きしている溶接道具について改善しようとして「置き」と材料棚を製作した。安全性や機能性などについて同科1年生17人にアンケートしたところ、「悪い・やや悪い」と回答したのが2人だけだったことから製品評価を良好と判断。「授業時の気付きから考案した作品。有効活用してもらいたい」と述べた。このほか、東北職能大主催の「電子情報系ものづくり競技会」も行われた。同大系列の3校から14人が参加し、電子回路の製作とプログラミングの技術を競った。